

北浦定政「平城宮大内裏鋪地図解」

古尾谷知浩

はじめに

本稿は、本居宣長記念館が所蔵する北浦定政「平城宮大内裏鋪地図解」の翻刻を行い、若干の考察を付すものである。これは同じく本居宣長記念館所蔵の「平城宮敷地図」の解説文にあたるものなので、「平城宮大内裏鋪地図解」の検討を行う前に、北浦定政が平城京研究の成果として作成した図一般について概説しておきたい。

一 北浦定政と「平城宮大内裏跡坪割図」

北浦定政^①（文化一四年（一八一七）〜明治四年（一八七二））は幕末の国学者で、藤堂藩古市奉行所に勤める傍ら、大和国を中心にフィールドワークを行い、文献史料と照合して天皇陵、条里制、都城の研究を行った。このうちの平城京復原研究の結果得られた知見を図に示し、その周囲に根拠史料や現地比定に関する解説文を付したものが、嘉永五年（一八五二）の年紀を持つ「平城

北浦定政「平城宮大内裏鋪地図解」（古尾谷）

宮大内裏跡坪割之図」（以下、「坪割図」と略称）である。「坪割図」には、現在も北浦家が所蔵する自筆本（以下、北浦家本、A^②）のほか、小原文庫所蔵の写本（小原文庫本、B^③）、奈良女子大学所蔵の写本（女子大本、C^④）があり、その他、古書保存会版『続々群書類従』（明治三六年（一九〇三））地誌部に翻刻されているものがある（続々群本、D）。また、近年、奈良国立博物館に所蔵されている「坪割図」写本が公開された（奈良博本、E^⑤）。これらの写本の関係についてはかつて検討したことがあり、現在では失われている江藤正澄作成の写本、小杉楡郵作成の写本が存在したことを指摘し、写本の系統を次のように推定した。



（A〜Eは現存写本、×は焼失、？は所在不明。実線は直接の書写、点線は直接か間接か不明。A—B—江藤本は、直接書写されている可能性が高い。）

但し、B以下の写本が作成された後で自筆本Aが修正されている部分もあり、現状は複雑な様相を呈している。

また、このほか「坪割図」と関係の深い図があり、北浦家関係資料の大部分の寄贈を受けた奈良文化財研究所が所蔵している(奈文研本)⁷⁾。これは平城京条坊復原図のみで周囲に解説文がないものであるが、奈良国立文化財研究所『北浦定政関係資料』では「坪割図」の草稿本として位置づけられており、「平城宮大内裏坪割図稿」と名付けられている。しかしながら、B小原文庫本成立後にA北浦家本が修正された点が奈文研本に反映されていることなどから、Aの草稿本ではなく、むしろ後から整理された図であると思われる。また、奈文研本独自の記載のうちのいくつかは、文久元年(一八六一)成立の北浦定政「平城旧址之図」と一致しており、奈文研本は嘉永五年(一八五二)成立の「坪割図」との間⁸⁾に位置するものと推定できる⁸⁾。

二 本居宣長記念館所蔵「平城宮敷地図」と 「平城宮大内裏鋪地図解」

本居宣長記念館には奈文研本「平城宮大内裏坪割図稿」の写本が所蔵されている(本居記念館本)⁹⁾。紙本彩色、縦九〇・六cm、横六七・八cmを測り、七紙を貼り継いでいる¹⁰⁾。外題に「定政考定／平城宮敷地図」とあり、その左下に「外二解一冊添」、右下に朱

書で「安政二年六月以本書校合了ぬ(花押)」と記されている。花押は本居宣長の三代後にあたる本居豊穎のものである。

本居記念館本の存在から、奈文研本は「平城宮敷地図」と名付けた方が適切であること、奈文研本は安政二年(一八五五)六月以前に成立したものであること、などが判明する。

さて、本居記念館本の外題下に「解一冊」とあるのが、今回翻刻を行う「平城宮大内裏鋪地図解」にあたる。外題に「平城大内裏鋪地図解」、内題に「平城宮大内裏鋪地図解」とあり、袋綴装、縦二六・二cm、横一八・二cm、表紙・裏表紙を除いて一三丁かな¹¹⁾。奥書はない。

内容構成は、

- 一、平城の都の歴史
- 二、左京・右京の規模
- 三、宮城の規模
- 四、南北大路の復原と現況
- 五、東西大路の復原と現況
- 六、「平城宮大内裏鋪地考証」(条坊に関する文献史料の提示)

「西大寺資財帳抜書」

「新薬師寺資財帳抜書」

「東大寺要録抜書」

となっている(番号は便宜的に付した)。

「平城宮敷地図」と「平城宮大内裏鋪地図解」は、北浦定政の

平城京研究の最終段階の成果と言うべきものであり、「平城宮大内裏跡坪割之図」との関係の含めて検討が必要であるが、今回は翻刻を行うに留め、さらなる研究は他日を期したい。

付 奈文研本「平城宮敷地図」と

本居宣長記念館本「平城宮敷地図」

先述のように、本居記念館本は奈文研本の写本であるが、いくつかの点で違いが見られる。両者の性格の違いを考える上で主要な点のみを列記しておきたい。

(一) 左京三条三坊

奈文研本では「梨原ノ宿院ハ／此辺ニアルニア／タル追テ正考」と記した付箋が貼られている。本居記念館本では本紙に直接記している。この一点のみをもつても本居記念館本が奈文研本の写本であることが言える。

(二) 左京四条三坊にみえる朱書「梨原庄」

奈文研本、本居記念館本とも、一・二・三・四・五・七坪に記されている。しかし、この記載の基となった『東大寺要録』四諸院章四、西南院の項では、二・三・七坪となっており、これは誤りである。なお、「坪割図」では自筆本、写本とも正確に記している。これは、五条三坊における梨原庄の配置をみて、奈文研本が誤って四条三坊に記してしまったものと推定できる。ちなみ

に、「平城宮大内裏鋪地図解」では、四条三坊の梨原庄は二・四・七坪と記しているが、「四」の傍に「三」と追記する。

(三) 左京八条四坊にみえる朱書「字辰市／ヒメタウノ／東ヲノ、ノ／カイト」

奈文研本は二坪、本居記念館本は三坪に記す。「平城宮大内裏鋪地図解」では二坪としていたので、本居記念館本の誤記である。

(四) 左京八条四坊にみえる朱書「字シリキ／レ垣内」

奈文研本は六坪、本居記念館本は五坪に記す。「平城宮大内裏鋪地図解」では六坪としていたので、本居記念館本の誤記である。

(五) 右京二条四坊にみえる朱書「字阿宇野」

奈文研本では二坪に記したものを白色顔料で抹消し、これとは別に三坪に記している。本居記念館本では、三坪のみに記している。これは奈文研本の誤記が修正された後に本居記念館本が書写されたものと推定できる。

(六) 寺院の表現

奈文研本では墨線で単純に建物の形を記すのみであるのに対して、本居記念館本では、いくつかの寺院についてはより詳細な表現をしているものがあり（宮内「超昇寺」、左京一条二坊十三・十四坪「海龍王寺」、右京一条四坊八坪「西大寺奥院」）、屋根を青色顔料で着色しているものもある（左京一条二坊十二坪「法花

寺」、左京一条二坊十三・十四坪「海龍王寺」、左京一条四坊一坪「不退寺」。

(七) 川の表現

奈文研本の川の表現には二種類ある。a 墨の二本線で川幅を表現し、線の間を青色顔料で塗ったもの。川の名前を記している(佐保川、率川、能登川、飯合(岩井)川、辰市川、佐貴(秋篠)川)。これらの川は「坪割図」にもみえる。b 青色顔料の線のみで書いたもの。川の名は記されない。一例を挙げれば、左京四坊で一条大路を西流し、三坊大路にて南折した後、再び西流し、二坊坊間大路にて再び南流して佐保川に合流する川(菰川)がある。これらの川は「坪割図」にはみえないが、いくつかの川については文久元年(一八六一)の「平城旧址之図」にもみえる。一方、本居記念館本ではaのみが描かれ、bはみえない。

このことは、奈文研本の最初の段階では、嘉永五年(一八五二)に原形が成立した「平城宮大内裏跡坪割之図」と同様にaの川のみが表現されており、安政二年(一八五五)に本居記念館本が書写された段階ではそのままであったものが、その後奈文研本にbの川が加筆されたことを示している(そしてその姿は文久元年の「平城旧址之図」に近い)。

このほか、本居記念館本における単純な誤写、誤写を修正した点などもあるが、省略する。

付記一

本居宣長記念館が所蔵する北浦定政関係資料については、二〇〇六年五月に名古屋大学の羽賀祥二氏、同大学院生(当時、現愛知大学)の廣瀬憲雄氏とともに調査を行った。また、翻刻の掲載については、本居宣長記念館の許可を得ている。いずれについても本居宣長記念館館長の吉田悦之氏の御高配を賜った。記して謝意を表したい。

付記二

本稿は、二〇〇三年度以来二〇一七年度に至るまで、名古屋大学文学部・文学研究科・人文学研究科において、羽賀祥二氏と合同で開講した「日本史学演習」「文化資源学」の成果を含んでいる。これまでの羽賀氏のご教示に対して、謝意を表したい。

註

- (一) 北浦定政については奈良国立文化財研究所『平城宮跡保存の先覚者たち』(一九七六年)、同『北浦定政関係資料』(一九九七年)、岩本次郎『平城京研究の先覚者 北浦定政に関する素描』(奈良国立文化財研究所『北浦定政関係資料』所収)、同『平城京研究の先覚者 北浦定政伝』(二)、『帝塚山大学人文科学部紀要』五、二〇〇一年、同『平城京研究の先駆者 北浦定政伝』(二)、『帝塚山大学人文科学部紀要』七、二〇〇一年、同『平城京を紙の上に建つ 北浦定政の絵図』(『地図情報』三〇―二、二〇一〇年)などを参照。また、北浦定政『平城宮大内裏跡坪割図』の写本については、館野和己「北浦定政『平城宮大内裏跡坪割之図』諸本の検討」(『古代都城廃絶後の変遷過程』平成九年度〜一年度科学研究費補助金研究成果報告書、二〇〇〇年)があり、そのほか古尾谷知浩「北浦定政『平城宮大内裏跡坪割図』」(『文献史料・物質

資料と古代史研究』塙書房、二〇一〇年、初発表二〇〇七年）で検討している。

- (2) 『北浦定政関係資料』目録篇I-171-36。奈良国立文化財研究所『北浦定政稿平城宮大内裏跡坪割之図』（コロタイプ複製、一九七九年）、同『なら平城京展九八』（展示図録、一九九八年）を参照。
- (3) 奈良国立文化財研究所『なら平城京展九八』（前掲註2）を参照。
- (4) 奈良国立博物館『西大寺古絵図は語る』（展示図録、二〇〇二年）を参照。
- (5) 奈良国立博物館『古地図を読みとく』（展示図録、二〇〇四年、野尻忠解説）を参照。
- (6) 古尾谷知浩『北浦定政「平城宮大内裏跡坪割図」』（前掲註1）
- (7) 『北浦定政関係資料』目録篇I-171-23。奈良文化財研究所『重要文化財指定記念展 平城宮跡大膳職推定地出土木簡、北浦定政関係資料』（展示図録、二〇〇四年）を参照。
- (8) 古尾谷知浩『北浦定政「平城宮大内裏跡坪割図」』（前掲註1）
- (9) 本居宣長記念館が所蔵する北浦定政関係資料については、岩本次郎『平城京研究の先駆者 北浦定政伝（二）』（前掲註1）の註38に紹介されている。
- (10) 岩本次郎『平城京研究の先駆者 北浦定政伝（二）』（前掲註1）註38の記述に基づくが、改めて確認した。
- (11) 岩本次郎『平城京研究の先駆者 北浦定政伝（二）』（前掲註1）註38の記述に基づくが、改めて確認した。

キーワード…北浦定政、平城宮大内裏鋪地図解、平城宮

北浦定政「平城宮大内裏鋪地図解」（古尾谷）

Abstract

On KITAURA Sadamasa *Heijokyudaidairishikichizuge*

FURUOYA Tomohiro

This paper aims to put KITAURA Sadamasa *Heijokyudaidairishikichizuge* into in type. KITAURA Sadamasa is a scholar of Japanese classical culture in the 19th century. *Heijokyudaidairishikichizuge* is the most important result of his study in Heijo palace site.

Keywords: KITAURA Sadamasa, *Heijokyudaidairishikichizuge*, Heijokyu